

19. 泌尿器科領域における五積散の効果

女性医療クリニックLUNAグループ・
LUNA骨盤底トータルサポートクリニック

○関口 由紀、中村 綾子、二宮 典子、前田 佳子
榎本 香織、藤崎 章子

【目的】五積散は、宋時代の和剤局方を出典とする方剤で、桂枝加芍薬湯に五つの積を治す薬物が加えられている。腰痛・神経痛・胃腸炎・月経困難症・冷え症などに用いられ、いずれも冷えて痛むことを目標として使用される。今回我々は、泌尿器科領域における五積散の使用成績を調べるため、レトロスペクティブな解析を行った。

【方法】2014年11月～2015年10月の1年間にLUNA骨盤底トータルサポートクリニックを受診し、五積散を処方した患者を抽出し、年齢・病名・五積散の効果などを解析した。

【結果】患者数は16名で、平均年齢56.3歳（最小値41歳、最大値69歳）だった。

年齢中央値は、52歳だった。患者病名は、膀胱痛症候群/間質性膀胱炎5例。過活動膀胱が2例。慢性骨盤痛症候群2例、膀胱炎再発例3例、線維筋痛症を含む慢性全身疼痛4例だった。16例中14例は、症状の改善を認めたが、2例（線維筋痛症1例、過活動膀胱1例）は、効果なく処方中止となった。当院における五積散の有効率は、87%と高率であった。

【考察】五積散は、中年女性の気温低下による症状悪化に対して用いられており、その有効性は高かった。

【結論】中年女性の季節変化を原因とする尿路愁訴の改善に五積散は効果的であると考えられた。